

第8投目：イスズミがクロに化けた日

2012.4月某日、前日までは北西の風でしたが、それほど強くは吹かなかったため波が落ちてくるのを期待しつつ西側海域へ釣行しました。夜が明けるのもだいぶ早くなってきており、午前5時に古仁屋港を出港した船が江仁屋離れ付近に着くころには周りも明るくなっています。この日の私は、クラブのメンバーと二人で波を見ながらK瀬に渡ることになりました。期間が1ヶ月間の奄美磯釣連盟4月大会にまだエントリー（45cm以上が対象）できてなかったので、今日こそは良型のクロを釣りたいものです。



潮見表では午前9時まで下げ潮です。撒き餌を打ちながら潮を観ると若干の下げが動いているようですが、仕掛けを引っ張ってくれるほどの流れではありません。見える魚もアイゴとツノダシが少々、あとはやる気のないサンノジが1匹フラフラと泳いでいるだけでした。時間もだいぶ過ぎた頃、あまりにも釣りたい魚が見えないため、次はサラシが仕掛けを運んでくれる場所に移動してみることにしました。

その場所で今までクロを釣ったことは無かったのですが、干潮で潮位が下がったおかげで、今日は右からと左からのサラシがキレイにぶつかり、縦に潜る流れができています。それまでの状況からあまり期待もせずに撒き餌をすると、すぐにキワに2kgは軽く超えるイスズミを発見しました。とりあえず竿を曲げたい…という一心でターゲットを彼に決めます。そのイスズミ、すぐに掛けられると思ったのですが、撒き餌は水面近くまで浮いて拾うくせに刺し餌は絶対に口にしません。さすがは数々の釣り人に狙われながらも大型になるまで成長した魚です。

流れのタイミングを計り、刺し餌に潮をつかませながら仕掛けを送り込む努力を繰り返して10分、やっとアタリです！サラシで喰った魚は何か確認できませんでしたが、掛けた瞬間から伝わる魚の重量感、間違いなくターゲットとしたイスズミでしょう。彼はキワ近くの溝を一気に突進し、ハエ根の向こう側まで回りました。仕掛けの強さを信じ竿で溜めようとも思いましたが、一瞬の判断、リールの逆回転でテンションを抜き、彼を自由に泳がせます。どんなに太い仕掛けも



地球に擦れれば一貫の終わりです。巻いたり緩めたり…少し時間が経つとやっとウキが見えてきました。そこで竿を横に倒し、突進された溝に魚を誘導すると簡単に元のサラシに戻ってきます。『あれっ？もしかして』

2kgのイスズミは1.5kgのクロに化けました(笑)結局この日はあと1枚追加し、合計2枚の釣果。クロに化けたイスズミは4月大会の入賞魚となりましたが、何故か素直には喜べない釣行となってしまいました。